

令和6年度 研修紀要

第38号

# 翠 松

学び合い、考えを高め合う生徒の育成

～協働的な学びの場の工夫を通して～

沼田市立沼田東中学校

## 研修の概要・成果と課題

### 1 研修主題及び設定の理由

#### ～研修主題～

主題 学び合い、考えを高め合う生徒の育成  
副主題 ～協働的な学びの場の工夫を通して～

#### 生徒の実態との関わり

- ・ 今までの取組により、自他の考えを比較し、考えを深める生徒が増えてきた。
- ・ 深まった考えを集団の中で発揮するための場の設定の工夫が足りなかった。

#### 指導の在り方との関わり

- ・ 考えが高まった姿を各教科等で明確にしていく必要がある。
- ・ 生徒同士で学び合い、高め合うための協働的な学びの場の工夫を意図的、計画的に設定する必要がある。

### 2 研修内容・方法

#### (1) 具体化した目指す生徒像

- ・ 見通しをもって主体的に学習に取り組み、他者との意見交流や対話を通して、お互いに考えを高め合うことができる。

#### (2) 共通実践する手立て

- ・ 各教科等で学び合い、考えを高め合った生徒の姿を具体的に示し、それを元に単元や題材で生徒が協働的な学びができるような場の設定を工夫する。
- ・ 【対話】と【交流】を手立ての中心とし、教師と生徒ではなく、生徒同士で対話ができるような機会を意図的、計画的に設ける。
- ・ 協働的な学びができるよう、ICT 機器の活用や教材等の工夫、交流のさせ方の工夫など、具体的な支援を十分に検討しながら繰り返し実践し、よりよい支援に改善していく。
- ・ 思考ツールを効果的に活用し、協働的な学びに取り入れていく。

### 3 研修計画・経過報告 <裏面>

### 4 これまでの研修の成果と今後の取組

#### ○成果

- ・ 考えを高め合った生徒の姿を具体的に示したことで、授業研究会の際に同じ視点で議論することができた。
- ・ 様々な話し合いの場や意見交流の場の工夫を授業検討会で提案することができた。

#### ○課題

- ・ 高め合った生徒の姿は明確になったが、高め合うための具体的な手立てをどこにどのように入れていくかを意図的に計画し、話し合いや意見交流に慣れさせていくことが必要である。
- ・ 協働的な学びの場を工夫するにあたり、生徒が必要感をもって取り組める課題を提供したり、生徒自身で課題を見つけさせたりする必要がある。

#### ○課題解決に向けての今後の取組

- ・ 各学年、各教科ごとに話し合いの場や意見交流の場を意図的、計画的に取り入れ、話し合いや意見交流を活性化させる手立ての工夫・改善を図る。

### 3 研修計画・経過報告

指 は、指導案検討 授 は、研究授業・授業研究会

月日	研修計画 [内容]	経過報告 [○研修の視点 (上段)・明らかになったこと (下段)]
4/15	・校内研修主題の確認	○主題、副主題の検討 ・主題は「学び合い、考えを高め合う生徒の育成」 ・副主題は「協働的な学びの場の工夫を通して」
5/7	・各教科の目指す生徒像、指導案の形式について	・目指す生徒像の検討 (教科部会での確認) ・指導案の形式の確認
5/27	・年間授業予定、組織編成 ・授業者の確認 ・要請訪問 A に向けて	・研修計画等の確認 ・1人1授業の検討 ・1人1授業の授業実践について
6/7	授 国語科 登坂教諭	○作文を推敲し、考えを伝え合う活動の工夫 ・活動の場やペアを工夫することによって、主体的な話し合い活動になった。
6/10	・指導主事要請訪問 A	・授業検討会を通して今後の研修の方向性を検討
6/24	・指導主事要請訪問 A を受けての反省と今後の課題	・各教科における授業実践とまとめ ・指導事項の確認と今後の取組の見直し
7/1	授 英語科 林教諭	○ to を正しく使うための交流活動の工夫 ・教師の説明を短くしたことにより、生徒が活動する時間を十分に確保することができた。
9/2	・2学期の予定 指 要請訪問 B 指導案検討①	・2学期の研修予定について ・要請訪問 B までの計画の確認 ・指導案の形式、授業構想について
9/4	授 理科 小幡教諭	○実験を通しての学び合いの場の工夫 ・生徒の発言からめあてを導き出したため、生徒が必要感をもって課題に取り組めた。
9/17	指 要請訪問 B 指導案検討②	・授業の視点と校内研修との関わりについて ・単元、授業構想について ・深い学びにつなげる支援について
9/17	授 道徳科 篠澤教諭	○立場の違う様々な意見を出させる工夫 ・意図的なグループ分けをすることにより、様々な意見や考えが出た。
9/19	授 社会科 高橋教諭	○グループでの話し合い活動を活発化させる工夫 ・同じ立場の人が集まることによって、話し合い活動が活発になった。
9/27	授 技術科 野上教諭	○わかりやすいスライド製作のためのペア活動の工夫 ・相手のよいところを素直に褒めたり、意見を言い合ったり出来ていた。
9/30	指 要請訪問 B 指導案検討③	・ねらい、指導計画、評価項目等について ・深い学びの取り入れ方について ・めあての提示から振り返りまでの1時間の授業の流れについて
10/7	授 数学科 町田教諭	○比例する関数を効率的に見つけるための対話の工夫 ・関数を効果的に見つける方法が振り返りに表れていた。
10/9	授 数学科 関口教諭	○課題解決のための話し合いの場の工夫 ・話し合いのための工夫があった。 ・発問が明確で、授業の進め方が丁寧だった。
10/11	・指導主事要請訪問 B 授 音楽科 中村教諭	・授業検討会を通して校内研修の成果と課題の明確化 ○よりよい歌唱表現を考えるための話し合いの工夫 ・生徒が取り組みたいと思える魅力的な課題だった。 ・必要感のある課題だったので自然に話し合いが活発になった。

10/23	授 国語科 星野梓教諭	○文章構成を考えるための話し合いの工夫 ・授業の進め方の中で、途中でも活動を止め、作品鑑賞や振り返りができた。
11/25	授 英語科 亀井教諭	○考えを伝えるための段階的な交流活動の工夫 ・課題設定、その後の授業の流れがよかったので、生徒は意欲的に授業に取り組んでいた。
11/25	・B訪問を受けて	・B訪問を受けて、今後の校内研修の方向性の確認
12/9	・SOSの見つけ方	・SOSの見つけ方、受け止め方について
12/10	授 体育科 星野颯教諭	○よりよいルールを考えるための話し合いの工夫 ・タブレットを上手く活用し、効率的かつ意欲的に話し合いが行われていた。
1/27	・アンケートの配付 ・来年度の研修の方向性	・成果と課題、生徒の変容の確認 ・沼田市の教育について
2/17	・来年度の研修について	・来年度の研修の方向付け ・年間指導計画・評価計画の修正

※資質向上研修

月日	研修計画 [内容]		実施内容
	区分	講師	
5/7	メンター研修	メンター研修 担当	・評価の仕方 ・評価ソフトの使い方
5/27	著作権に関する研修	教頭 栗原 伸明	・著作権取扱いに関する研修
6/7	メンター研修	メンター研修 担当	・所見の書き方について
8/26	心肺蘇生法講習会	沼田消防署	・心肺蘇生に関する研修 ・AEDの使い方について
9/17	学校保健に関する研修	養護教諭 櫛淵 窓	・救急体制、アレルギー対応について ・熱中症対応について ・嘔吐物処理について
12/6	生徒指導に関する研修	スクールカウンセラー 廣田 莉奈	・SOSの見つけ方について

## ＜実 践 編＞

☆各教科における「目指す生徒像」

☆研究授業指導案

- ・ 国 語
- ・ 社 会
- ・ 数 学
- ・ 理 科
- ・ 英 語
- ・ 音 楽
- ・ 技 術
- ・ 保 健 体 育
- ・ 道 徳

## 目指す生徒像（令和6年度）

沼田東中学校

○見通しを持って主体的に学習に取り組み、他者との意見交流や対話を通して、お互いに高め合うことができる生徒。

参考資料：高め合う生徒の具体的な姿

- ・一人一人が自分の考えをもち、それを伝え合おうとしている。
- ・共感や対立が生まれている。
- ・互いに納得する考えを模索している。
- ・意見交流や対話を通して考えを修正している。または元の考えに自信をもっている。
- ・互いのよさを認め合い、よりよいものを創り上げようとしている。等

### 各教科における目指す生徒像

国語	○互いに話し合ったり意見交流をしたりしながら、友達の考えを取り入れ、高め合うことができる生徒。
社会	○知識・技能を活用し、自分なりの考えをもち、話し合ったり意見交流をしたりすることを通して、社会的事象の特色や意味等への考えを高め合うことのできる生徒。
数学	○基礎的・基本的な知識及び技能を活用し、話し合ったり意見交換をしたりしながら、自分の考えを広げ、他者との共感や理解を深めることができる生徒。
理科	○知識・技能を活用し、解決の見通しをもって実験・観察を行い、自分の考えをまとめ、話し合ったり意見交流をしたりしながら、納得できる（自信のもてる）考えを構築して自然科学の法則や概念への理解を深めることができる生徒。
英語	○友達の考えを取り入れたり、相手にとって分かりやすい表現を考えたりしながら、既習の語句や文を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる生徒。
音楽	○自分の知覚と感受をもとに、音楽的な見方や考え方を働かせて主体的に考え、その意見を他者と伝え合うことで、音楽表現の創意工夫をより深く追求したり、曲のもつよさをより深く感じたりすることができる生徒。
技術	○学んだ知識や技術を日常生活に反映し、道具や機器を安全に使用したり、環境問題やSDGsについて自分なりに考えたりしながら、他者との協働や意見・価値観の共有に努めることができる生徒。
保健体育	○身に付けた知識や技能をもとに、他者との意見交流を通して、課題解決の仕方を工夫し練習や試合に取り組む中で、互いの良さを認め合ったり、自分の考えに自信をもったりできる生徒。
道徳	○道徳的諸価値についての理解をもとに、自己の生き方を多面的・多角的に見つめ直し、他者と共によりよく生きるための意見交流や対話を通して、道徳性を養うことができる生徒。

# 音楽科学習指導案

## 授業の視点

自分たちの思いや意図を表現する方法を考えるために、グループや全体で話し合い活動をしたことは、よりよい歌唱表現を考える上で有効であったか。

## 題材名「全体の響きや各声部の役割を生かして、歌唱表現を工夫しよう」

〔学指要領：A 表現(1)ア、イ(ア)、ウ(イ)、共通事項(1)ア〕

令和6年10月11日(金) 第5校時 音楽室

沼田市立沼田東中学校 第3学年 39名 指導者 T1 中村 亮太

T2 登坂 俊介

## I 題材の構想

### 1 題材の目標及び生徒の実態

	目標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"><li>「正解」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解することができる。</li><li>創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につけることができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>楽譜に書かれている音符や休符、強弱記号を理解できている。</li><li>多くの生徒が正確な音程で歌うことができ、積極的に声も出している。一方で、自信がなく声が小さかったり音が高くなると出すことを諦めたりしてしまう生徒がいる。</li></ul>
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"><li>「正解」の旋律やテクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>鑑賞の授業で感受したことを言葉で表現する活動を重点的に行っており、自分の思いを言葉で表すことができる生徒が多い。文章化することが苦手な生徒は、「思考の言葉カード」の中に当てはまる言葉を組み合わせることで表している。また、根拠や具体性をもって記述する生徒は少ない。</li><li>表現することに苦手意識をもっている生徒がいる。</li></ul>
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"><li>「正解」の曲想と合唱の関わり方や歌詞の内容などに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組むとともに、混声合唱に親しもうとする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>主体的に歌唱の活動に取り組むことができ、豊かな響きのある声で歌うことができる。しかし一部の生徒は、歌うことに対して抵抗を感じている様子である。</li></ul>

## 2 題材設定の理由

### (1) 題材について

#### ○題材の価値

「正解」(作詞・作曲 野田洋次郎)

本題材で扱う楽曲は、ロックバンド「RADWIMPS」のボーカルを担当する野田洋次郎が作曲した曲である。合唱曲として作られていないが、コーラスが入っている箇所がある。へ長調に編曲されており、教科書でも扱う調性である。冒頭から3声の美しいハーモニーで始まる。ユニゾンで歌い進め、オブリガートでメロディを強調しつつサビに入る。中間部から再び3声に分かれ、3和音の音を各パートが歌う。最終部はユニゾンに戻り、最後はアカペラで終わる。ユニゾンで歌う箇所が多いため、パートの人数比が偏っている場合でも、比較的パート間での声量バランスがとりやすい楽曲だと考える。歌詞は「卒業」がテーマとして書かれている。卒業後は友人と別々の道を歩むこととなり、友人と過ごした日々を振り返り、楽しかったことや悩んだことを回想している。この先の人生は誰も予想できないから、自分だけの正解を探してほしいという作者からの思いが込められている。

## (2) 指導方針について

### ○つかむ過程

- ・ 楽曲のもつよさや曲想に着目させることで、生徒の学習意欲を高める。
- ・ 各パートの音取りの場面で、ユニゾンからハーモニーへと変化する変わり目の音を重点的に指導することで、互いの音を聴き合いながら正しい音程で歌唱できるようにする。
- ・ 個人やパートでの練習の効果が高まるように、表現の技能（発声・言葉の発音・呼吸法等）について、個やパートに応じた専門的指導を行う。

### ○追求する過程

- ・ 音楽を形づくっている要素を手掛かりにして歌唱表現を創意工夫できるようにする。
- ・ 全員の思いや意図を共有し、それに向かって歌を磨けるようにする。
- ・ 場面に応じて演奏の録音を行い、客観的に自分たちの演奏を聴く機会を設けることで、課題を自ら見つけることができるようにする。

### ○まとめる過程

- ・ 演奏を振り返りながら、知覚と感受の関わりを他の題材にも活用できるようにする。

### ○学年合唱

- ・ 合唱の技術を習得するだけでなく、合唱を通しての仲間づくりを行いたいと考える。仲間とともに共通の目標に向かって、心をひとつにすることで生まれる一体感や生徒がそれぞれ声・指揮・伴奏で学年に貢献しているという自己有用感を味わうことができる。
- ・ 本校では、単学級の学年と複式学級の学年でクラス人数にばらつきが出てしまうため、昨年度から合唱コンクールは学年合唱で取り組んでいる。本題材では合唱コンクールに向けた取り組みともなるので、3学年のクラス担任がT1、T2として授業を行う。

## 3 評価規準

知識・技能	① 「正解」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ② 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につけている。
思考・判断・表現	① 「正解」の旋律やテクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている。 ② 「正解」の曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。
主体的に学習に取り組む態度	① 「正解」の曲想と合唱の関わり方や歌詞の内容などに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。

## 4 指導及び評価、ICT 活用の計画（全8時間：本時第6時） ※指導に生かす評価○、評定に用いる評価●

時	学習活動	知	思	態
1	・ 歌詞の内容や曲想から知覚・感受したことを他者と共有する活動を通して、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて把握し、1人1人がこの曲に込めたい思いや意図を考える。(あ) (a) <b>題材の課題 曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫し、思いや意図をもって表現する。</b>	①		
2	・ 自分のパートの音程とリズムを知り、範唱を聴いたり、ピアノと合わせて歌ったりする。(あ) (a)	①		
3				
4	・ 他のパートと合わせて歌う活動を通して、全体の響きと各声部との関わりについて考える。(あ) (a)	②		
5	・ 曲想と合唱の関わり方や歌詞の内容から、作者が込めた思いを考える。(あ)		①	
6	・ 生徒の思いや意図を表現するためにはどのように歌うのが効果的か考える。(あ)		②	
7	・ 生徒の思いや意図を効果的に表現するために考えた工夫点を試行錯誤して表現する。(あ)		②	
8	・ 自分たちの演奏が、曲にふさわしい創意工夫を生かしたものになっているかについて振り返りと交流を行い、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱する。(あ)	②		①

\*活用する学習支援ソフト等：(あ) ロイロノート

\*活用するコンテンツ等：(a) 範唱CD

## II 本時の学習（6／8）

1 **ねらい** グループや全体での話し合い活動を通して、自分たちの思いや意図を表現する方法を考えることができるようにする。

2 **準備** 教師：楽譜、タブレット、スピーカー  
生徒：楽譜、タブレット、筆記用具、水筒

3 **展開**

【★ICT 活用に関する事項】

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（10分）</p> <p>(1) 前時に学習した作者の思いを確認する。</p> <p>(2) 作者の思いを感じながら「正解」を通して歌う。</p> <p>(3) 生徒が考えた思いや意図を確認する。</p> <p>(4) 本時の学習課題を考える。</p> <div data-bbox="172 974 790 1108" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;めあて&gt; 東中3年生流の「正解」にするために、伝えたい思いや意図を表現する方法を考えよう</p> </div> <p>S：自分たち流にするには、どんな工夫の方法があるだろう。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時までの学習の成果を評価して意欲をもたせるために、楽譜にヒントがあることを確認する。(T1)</li> <li>○ 一人一人がしっかりと声を出せるように、姿勢、息の使い方などに気をつけて歌うよう助言する。(T1)</li> <li>○ パートの役割を考えるために、全体の響きをよく聴いて歌うように助言する。(T1)</li> <li>○ 記録を残すために、演奏を録画する。(T1)(T2)</li> <li>○ 生徒の思いや意図を明確にして工夫点を考えられるように、生徒の思いや意図を全体で共有してから活動に入る。(T1)</li> </ul>
<p>2 学年の思いや意図を表現するための工夫点を考える。（35分）</p> <p>(1) どんな表現方法があるか各自で考える。</p> <div data-bbox="172 1332 790 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>表現する方法ってどんな方法があるか、思いつく限り考えてみよう</p> </div> <p>(2) 考えた表現方法を全体で確認する。 S：ソロパートを作る。 S：伴奏を止めて、アカペラで歌うのはどうだろう。 S：足踏みしながら歌ってもいいかな。</p> <p>(3) ソプラノ・アルト・テノールの各パートを2つずつのグループに分けて、どのように歌うと思いや意図が伝わるか考え、試しながら歌う。</p> <p>(4) 各グループが工夫したことを発表して、その考えのよさや改善点を考える。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒に新しい気づきや自由な工夫点が考えられるように、工夫例と参考動画を提示する。(T1)【★提示】</li> <li>○ 相手の意見を尊重した話し合い活動になるように、他人の意見を否定しないで意見を言うように伝える。(T1)</li> <li>○ 速やかにグループ活動ができるように、編成の指示をする。(T1)(T2)</li> <li>○ グループ活動の際、試しているときに音が混ざらないように、各パートの部屋を分ける。(T1)</li> <li>○ それぞれが考えた意見が生徒の思いや意図と相違がないように、机間指導しながら助言する。(T1)(T2)</li> <li>○ 発表するだけの場にならないように、自分の意見と比較しながら発表を聞き、その工夫点を取り入れるか考え伝え合うように促す。(T1)</li> </ul> <div data-bbox="829 1937 1428 2105" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目（思） 工夫したことを発表した内容や振り返りの記述から、「曲にふさわしい歌唱表現する方法をどのように考えたか」を評価する。</p> </div>

<p><b>3 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容の振り返りをする。(5分)【★提出】</b></p> <p>(1) 本時の振り返りをロイロノートに記述し、提出する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>まとめ</b></p> <p>表現する方法を考えることで、「正解」を自分たち流の合奏にすることができた。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <p>ソロパートをつくったり、身体表現を取り入れたりすることによって、合唱を自分たち流に表現することができると分かった。次回は自分たち流の表現をして、合唱を仕上げたい。</p> </div>	<p>○他の生徒が書いた振り返りを見ることができるように、ロイロノートの回答を共有して生徒に見るように促す。【★一覧表示】(T1)</p> <p>○新しく課題を見つけることができた生徒の意欲を認める声掛けを行う。(T1)</p>
---	--

### 音楽科における目指す生徒像

○自分の知覚と感受をもとに、音楽的な見方や考え方を働かせて主体的に考え、その意見を他者と伝え合うことで、音楽表現の創意工夫をより深く追求したり、曲のもつよさをより深く感じたりすることができる生徒。

### 本時の授業における高め合った姿

- ① 工夫例の動画を参考にして、新しい気付きや自由な工夫を自分なりに考え、伝え合うことができる。
- ② 他者の意見を聞き、根拠をもって自分なりの意見を考え、伝え合うことができる。
- ③ お互いの工夫点に対して、共感や対立が生まれる。
- ④ 話し合いの中で、納得できる表現方法を模索している。
- ⑤ 意見交流や対話を通して、自分の考えを修正したり、自信をもったりしている。
- ⑥ 他者の意見のよさを認め、よりよい合唱を創り上げようとしている。

### 成果

- ・生徒が取り組みたいと思えるような魅力的な課題を提供できた。
- ・必要感のある課題だったので、自然に話し合いが活発になった。

### 課題

- ・高め合うための具体的な手立てを単元構想に計画的に入れていく必要がある。
- ・生徒自身で課題を見つけさせるような発問の工夫が必要である。

国語科学習指導案

令和6年6月7日(金) 第4校時 3年1組教室  
沼田市立沼田東中学校 3年1組 指導者 登坂 俊介

授業の視点

推敲する箇所を探す場面において、2人1組での話し合い活動を取り入れたことは、友達の考えを取り入れ、お互いに考えを高め合うために有効であったか。

- 1 単元名 わかりやすく伝える
- 2 ねらい お互いの作文を読み合い、推敲する箇所を探す活動を通して、自らの思いや考えを伝え合うことができるようにする。
- 3 展開

主な学習活動 予想される生徒の意識 [S]	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目 (観点)
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(10分)</p> <p>&lt;めあて&gt; 主張文を読み合って推敲する箇所を見つけ、お互いに伝え合おう。</p> <p>S: 友達の作文を読んで推敲する箇所を見つけるのは難しそうだな。</p>		<p>○全員でめあてをつかむことができるように、「推敲」の意味を確認する。 【★提示・配布】</p> <p>○本時の学習に見通しをもって臨めるように、本時の流れを全体で確認する。</p>
<p>2 個人で自分の作文を読み直し、特に注意して見てほしいところを探す。(10分)</p> <p>「自分で書いた文章を読んで、特にこの後の交流で見てもらいたいところに線を引こう」</p> <p>S: この文章で本当に相手に伝わるか不安だな。 S: 自分でもよくわからないところがあるから、良いアドバイスがもらえるといいな。</p>		<p>○限られた時間で効率的な交流活動ができるように、特に見てもらいたい箇所に線を引かせる。</p> <p>○交流活動にスムーズに入れるように、交流活動の進め方を確認する。</p>
<p>3 2人1組でお互いに作文を読み合い、よかったところやアドバイスを伝え合う。(25分)</p> <p>「お互いの作文を読み合って、推敲する箇所を探す際に注意すべきところはどこでしょうか」</p> <p>S: 自分では気づかないところをアドバイスしてもらって助かったな。 S: どう書けば良いかわからなかったところがわかるようになってよかったな。 S: たしかに今の書き方より、アドバイスしてもらった書き方のほうがわかりやすいし、説得力があるな。</p>		<p>○推敲する箇所を探す際に迷わないように、視点をいくつか示し、それらに沿って探すように声かけを行う。</p> <p>○自分の意見が伝えやすくなるように、アドバイスしたことを必ず直さなければいけないということではないことを伝え、自分の意見をどんどん伝えさせる。</p> <p>○対話形式で話し合いが進むように、アドバイスをもらうだけでなく、お互いに質問し合ったり疑問をなげかけ合ったりするよう声かけを行う。</p> <p>◆評価項目 (態) ・交流の様子、振り返りシートの記述から、「推敲する箇所を探し、伝え合おうとしているか」を評価する。</p>

<p>4 本時のめあてを確認し、学習内容の振り返りをする。(5分)</p>	<p>○本時のめあてに沿った振り返りができるように、振り返りの視点を提示する。</p>
<p>&lt;まとめ・振り返り&gt;  <b>S</b>：友達と意見交流をすることによって、自分の作文の良いところや直した方が良いところがわかった。次の時間に推敲するときには、今日アドバイスをもらったところを中心に推敲していきたい。</p>	

国語科における目指す生徒像

○互いに話し合ったり意見交流をしたりしながら、友達の考えを取り入れ、高め合うことができる生徒。

本時における高め合った姿

○推敲する箇所がわからない。

○自分の作文の直した方がよいところがわからない。

○修正した方がよいのはわかるが、どのように修正すればよいのかわからない。

↓

○意見交流を通して推敲する箇所やわからなかったところがわかり、次時でどこを推敲すればよいのかがわかる。

成果

・活動の場やペアを工夫することによって、主体的な話し合い活動になった。

課題

・教師が話しすぎてしまう場面があったので、生徒が主体的に活動できるように工夫する。

# 英語科学習指導案

令和6年7月1日(月)第2校時  
2年1組室 指導者 林 秀紀

## 授業の視点

To不定詞で行動の目的や理由を伝える表現を学ために、タブレット上でキーワードを選び、コミュニケーション活動をおこなったことは有効であったか。

### 1 題材名 「PROGRAM3 Taste of Culture」 ～ SCENES 3 ～

### 2 本時のねらい

タブレットを使ったコミュニケーション活動を通して、行動の目的や理由を伝えることができるようにする。

### 3 授業の流れ(全10時間予定 本時は5時間目 「つかむ」過程)

学習活動	時間	学習の支援及び留意事項
〈つかむ〉 ○あいさつ ○復習	8分	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で挨拶をしたり、英語の授業の雰囲気になるようにする。</li> <li>ペアでプログラム2の単語の発音練習をタブレットで復習させる。はじめは、全体で練習し、次にペアで練習させる。お互いに正しく発音できたかどうか確認しながら練習させる。</li> </ul>
〈追求する〉 ○生徒とインタラクトしながら不定詞副詞的用法を知る。 ○ TO 不定副詞的用法の作り方や使い方を学ぶ。	17分	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なアイテムを使って、本日の学習を導入し、気づかせる。</li> <li>Scenes1 のやりとりの動画を見てどんな話をしているのかを生徒と問答しながら考えさせ、共有し本日学習する英語表現に気づかせる。</li> </ul> <p>めあて 行動の目的や理由を伝え一緒に行ってくれる友だちをたくさん探そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントの画面を使って TO 不定副詞的用法を導入する。scenes1で学習したことを関連付けさせ、理解させる。</li> <li>生徒達が楽しくできるようなゲーム形式のアクティビティ「心を1つに」をペアでおこない、何度も口頭練習をさせる。</li> </ul>
〈まとめる〉 ○タブレットを使って本日学習した TO 不定副詞的用法を練習する。	20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>本日に学んだ TO 不定副詞的用法を使ってコミュニケーション活動をする。その際、タブレットを活用させる。自分で選んだ3つキーワードをもとに英語の文を作成させる。コミュニケーション活動を通して生徒と交流し、同じことをしようとしている生徒をできるだけたくさん探させる。</li> <li>たくさんサインを集められた生徒を賞賛してあげるようにする。</li> <li>活動終了後、プリントでTo不定詞の副詞的用法を確認させる。</li> </ul>
振り返り	5分	振り返り学習を行い、分かったことを整理する。

### 【評価項目】(思考・判断・表現)

○自分の選んだキーワードから、行動の目的や理由を伝える英文考え、伝えることができる。

(方法 観察 ロイロノート)

### 成果

- ◎身近な話題でコミュニケーション活動を行ったので生徒達が親しみをもって活動に取り組むことができた。
- ◎生徒の興味を引く導入が行われて、興味を持って授業を始めることができた。

### 課題

- 学び合いという観点から考えると、もう少し生徒が主体的に学び合うような活動ができればよかった。
- 生徒同士の交流の仕方について、もう少し工夫があればいいと思われる。

# 理 科 学 習 指 導

令和 6年 9月 4日 (水) 第2校時  
1年1組 於：理科室 指導者 小幡儀見

## 授業の視点

本時の「班編成」や「実験器具の工夫」が「協働的な学びができる場の設定」に有効であったか。

1, 単元名 小単元「気体の性質」 ～大単元「身のまわりの物質」第4節～

2, 本時の学習

(1) ねらい ○二酸化炭素を発生させる実験を正しく行い、水上置換法で集めることができる。

○石灰水や線香を使って発生した気体が二酸化炭素であることを確かめることができる。〈観察・実験の技能〉

(2) 準備 ・うすい塩酸・石灰石・石灰水・線香・マッチ・三角フラスコ (管つきゴム栓付ペットボトル)・水槽・集気瓶・ガラス板

(3) 展開

単元	学習内容・主な発問・予想される反応	時間	指導上の留意点及び支援
課題把握	<b>1 単元全体の課題と流れを確認する。</b> これから学習していく気体の種類は？ S: 「酸素・二酸化炭素・水素・アンモニア・窒素」 S: 「空気の主成分の気体です。」	2分	○各自で調べてもらった各種気体の性質や作り方、集め方を今後全員に発表し合って確認しながら学習を進めていくことを予告する。
	<b>2 本時のめあてを知る。</b>	5分	○今日扱う気体は二酸化炭素であること知らせる。 ・本時の活動は「二酸化炭素を発生させて集めること」「発生した気体が二酸化炭素であることを確かめること」であり、本時のねらいは「その実験技能をしっかりと身に付けること」を確認する。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>&lt;めあて&gt; 二酸化炭素を作って、集めて、確かめよう。</b> </div>			
課題追究	<b>3 二酸化炭素について調べたことを紹介し合う。</b>  二酸化炭素について調べたことを紹介し合おう。	20分	○各自で調べた内容を黒板に書き出させて紹介し合わせる。 ・基本的な性質（不燃性、空気より大きい密度、水に少し溶ける、空気中1%未満等） ・作り方（有機物の燃焼、石灰石に塩酸、重曹の加熱等） ・集め方（下方置換、水上置換） ○一つ一つについて、教師が補足説明を加えていく。 ・自分の調べ学習にたりない部分は追記させていく。 ○本時は、 <b>作り方は「石灰石と塩酸の反応」</b> <b>集め方は「水上置換法」</b> で実験を行うことを指示する。
	<b>4 二酸化炭素を発生させて集める。</b> 指示された方法で気体を発生させて、その気体を集めよう。 S: 「自分が薬品を反応させるよ」 S: 「自分は水上置換をするよ」 S: 「2本目は役目を交代しよう」 S: 「塩酸を一気に入れすぎると上手に振れよ。メガネちゃんと着けるよ」	13分	○見本として教師が演示してみせる。 ・ <b>三角フラスコ（自作教材）</b> の中に石灰石を適量入れておき、そこに塩酸を徐々に加えて行く。いきなり大量の塩酸を入れないことを指示し、安全メガネの着用を指示する。 ・下方置換より水上置換を選択する優位性を説明する。 ・最初に出てくる気体は集めない。理由を生徒に考えさせる。 ○ <b>各班ごとに、気体発生・捕集実験を行わせる。</b> ・各班、集気瓶に2本ずつ集めさせておく。 * <b>3人一組で活動させる。役割を分担し、また交代しながら操作に加わることの指示を徹底し、机間支援を随時行う。</b>

<p>5 発生した気体が二酸化炭素であることをたしかめる。</p> <p><b>気体が二酸化炭素であることを証明したい。どうしますか？</b></p> <p>S: 「火を近づけて消えたら CO<sub>2</sub>」</p> <p>S: 「指示薬 (石灰) が白く濁ったら CO<sub>2</sub>」</p>	<p>5 分</p>	<p>○二酸化炭素であることを確かめる方法を考える。</p> <p>・石灰水及び、火を近づける方法を提案させる。</p> <p>・どういう結果になればよいのか見通しを確認する。</p> <p>・それぞれの班で実験させ、二酸化炭素であることを同定させる。</p> <p><b>◆評価項目 (知識・技能)</b></p> <p>机間支援により「安全に留意しながら正しく器具を操作して、実験をすることができているか」を評価する。</p>
<p>まとめ</p> <p>6 本時のまとめをする。</p> <p><b>実験結果を考察しよう。</b></p> <p>S: 「火を消し、石灰水を白濁させる性質から CO<sub>2</sub> と分かった」</p> <p>S: 「石灰石と塩酸の反応で CO<sub>2</sub> が発生する」</p> <p>S: 「CO<sub>2</sub> は水上置換で集められる」</p>	<p>5 分</p>	<p>* 本時の実験を成功させた事への賞賛を送る。</p> <p>○二酸化炭素の基本的な性質、作り方、集め方の確認をする。</p> <p>・特に集め方について、「空気より重いか軽いか」「水への溶け方」の視点で捕集法が決定されることを強調しておく。</p> <p>○次の時間に扱う気体は「酸素」であることを予告しておく。</p> <p>・調べ学習の内容をさらに推敲しておくことを勧めておく。</p>
<p>振り返り</p> <p>7 本時を振り返る</p> <p><b>S: 「こういう化学反応で気体を作ることができることが分かった。気体の性質で集め方を変えることも分かった。」</b></p> <p><b>S: 「二酸化炭素を違う方法で作ったり、酸素や水素などの他の気体も早く作ったり調べたい。」</b></p> <p><b>S: 「チームで役割分担して協力したり、助け合いながら学習するってとっても楽しい。やる気が増した。」</b></p>		

<理科における「目指す生徒像」>

○知識・技能を活用し、見通しをもって実験・観察を行い、自分の考えをまとめたり、話し合ったりしながら、自然科学の法則や概念への理解を深めることができる生徒。

<本時における「学び合い、考えを高め合う」を達成した姿>

- 「チームとして」この検証活動を成功させるために、互いに「助言」「確認」「支援」をしあいながら各々が役割を果たして「成功体験」を得ることができる。
- 本時の活動を通して、「協働のよさ」を実感し、「自己存在感・肯定感」「今後の学習への意欲」を高めることができている。

<成果と課題>

【成果】

<授業の視点: 「協働的な学びができる場の設定」としての「班編成」と「教材準備」>

- ◎生徒たちの自発的な「班編成(3人組)」により、準備段階から実験まで活動意欲と助け合いが継続していた。
- ◎大人数クラスの13班編成に対応する「教材準備」により、各個に役割が与えられ、役責を果たすために努力する姿が大いに見て取れた。本時の成功体験が次時への意欲にもつながっていた。

【課題】

- 「防災メガネの着用を怠る生徒」「全体確認時に実験道具で遊んでしまう生徒」などが数名いることが気になった。大人数クラスであるが故の「活動のメリハリ」や「生徒の状態把握」に留意する必要がある。
- あえて「ICT を活用」する場面を設定できなかつたらどうか。→ (授業者は本時には必要なしと判断)

# 道徳科学習指導案

令和6年9月17日 第5校時 3階多目的ホール

3年生 指導者 T1 篠澤 敦子 T2 中村 亮太

## <授業の視点>

異なる考えの友だちとグループを作り意見交流や話し合いをすることは、立場の違う多様な意見を出させ礼儀の意義や状況に応じた礼儀について生徒が考えを広げ、深める上で有効であったか。

1. 主題名 場に応じた礼儀 (内容項目：B-7 礼儀)
2. ねらい  
その場に応じた礼儀について話し合い、礼儀の意義や状況に応じた礼儀を考えられる判断力を育てる。
3. 教材名 「礼儀って何」 明日への扉3
4. 本時の学習
  - (1) 準備 教師 スライド、ワークシート、教科書、タブレット・マグネット  
生徒 教科書・タブレット
  - (2) 展開

過程	主な学習活動	時間	指導上の留意点及び支援
つかむ	1 本時のめあてを把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">発問①どんな場面の写真でしようか？</div> S ホームラン打って、喜んでる。 S 試合に勝って喜んでる。 S チームで勝利を喜んでる。	5分	T1 いろいろなガッツポーズの映像資料を見せ、喜びを体現していることを確認する。また、競技によって多様な形があることを確認する。 ○本時の主題に対する道徳的価値について問題意識を持たせる。 ○剣道部の生徒に話をしてもらい、武道における「礼」がどのように考えられているのか知らせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">めあて 場に応じた「礼儀」について考えよう</div>		
追	2 資料から考える。 ○資料を読む。	6分	T1T2 朗読音声を聞きながら資料を読む。 ○スクリーンにオリンピックの柔道のシーンを投影しておく。(T2) ○生徒は自分は誰の考えに近いのか考えながら、音読を聞く。
追求する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">発問② 「ガッツポーズ」について、Aさん～Eさんの意見を形・心の面からまとめ、P145のグラフに位置づけましょう。自分は誰の考えに近いですか？</div> S:Aさん…不支持。相手への感謝、礼を大事にすることが大切。 S:Bさん…支持。スポーツとして喜びの表現は自然。 S:Cさん…不支持。相手を敬う、礼を大事にすることが大切。 S:Dさん…指示。喜びの表現はいい。心を込めた礼も必要。 S:Eさん…どちらも言えない。形だけの礼は嫌だ。	10分	T1T2 Aさん～Eさんの意見を「支持・不支持・どちらとも言えない、のいずれか」「どんな意見をもっているか」でまとめ、P145のグラフに分類させる。(ロイロノート・ホワイトボード) T1 グループごとに発表させ、Aさん～Eさんの意見をまとめる。 ○自分の考えに近い考えを決め、マグネットを黒板に貼らせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">発問③ あなたは勝利の「ガッツポーズ」を支持しますか。しませんか？理由も考えましょう。グループで話し合い、意見を一つにまとめましょう。</div>		
<支持>	S 勝った瞬間に喜びがあふれるのは当然だ。 ガッツポーズをしても最後に心を込めた礼をすればよい。		T1T2 「支持・不支持・どちらとも言えない、のいずれか」とその「理由」を考え、ワークシートに記入させる。

	<p>チームや自噴を活気づける。          &lt;不支持&gt;          S 相手を敬う上で、ガッツポーズはいけない。          相手を侮辱する行為に見える。          &lt;どちらとも言えない&gt;          S 柔道の礼儀を考えればやらない方がいいとは思いますが、実際に自分が勝ったらやっちゃいそう。</p>	15分	<p>T1T2 教師が付箋を見ながらグループを決め、「指示する理由」「支持しない理由」「どちらでもない」理由を意見交流をさせる。それぞれの理由を発表し合うだけでなく、グループごとに意見をひとつにまとめその理由を考えさせる。(ロイロノート)          T1 グループごとに発表させる。グループの意見を元に、共通した考えがあるか考えさせる。</p>
<p>発問④ 「礼儀のよさ・よいところ」とはなんでしょう。</p>			
	<p>S 相手に対する尊敬や感謝の気持ちを表せたり、否定したりしない。          S お互いを大切にできる。          S だれもいやな気持ちにさせない。</p>	7分	<p>T1 自分の考えを発表させる。          ○立場の違う多様な意見の中から、共通する大切な礼儀の意義を見いださせる。</p>
まとめ・振り返り	<p>3 話し合ったことをもとに自分の考えたことをまとめる。          S 場に応じて、望ましい態度・礼儀を考え、実践する。          S 相手を思い、敬い、相手のことを大切にすること。          ○「自分への振り返り」を記入し、本時の振り返りをする。</p>	7分	<p>T1T2 本時を振り返らせ、礼儀について考えたこと、分かったことなどをワークシートに記入させる。          T1 生徒の中から指名して、考えたことなどを発表させる。          T1 礼儀の意義やその場の状況に応じた礼儀があることに触れながら話をする。          ○礼儀についての考えを振り返ることで、今後の生き方に生かせるよう余韻をもって終わらせる。</p>

評価の視点  
 友だちとの意見交流を通して、礼儀の意義や状況に応じた礼儀について自分の考えを広げたり、いろいろな考えを知り、自分の考えを深めたりしている。

<目指す生徒像>

1 道徳的諸価値についての理解を基に自己の生き方を多面的・多角的に見つめ直し、主体的な判断の下に行動しようとし、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことができる生徒。

<本時の授業における深い学びを達成した姿>

1 その場に応じた礼儀について話し合い、礼儀の意義や状況に応じた礼儀について考え、それを生活の中に生かそうとする意欲をもっている。

[成果]

- ◎導入に写真を用いたり、実際に武道に取り組む生徒に話を聞いたりすることが、生徒の関心を引くことに有効であった。
- ◎グラフを用いて意見の也考えを可視化したことや、思考ツールを利用したことで、生徒の意見が一目で見てわかりやすくなっていた。
- ◎話し合いの班編制を意図的にしたことで、多様な意見が出て交流が深まり、生徒が礼儀の意義や状況に応じた礼儀について考えを広げ、深める上での手助けになっていた。

[課題]

- 発問の数が多かった。話し合う時間が少ない場面も見られたので、発問は精選し、1つ1つの発問に対して生徒がしっかり考えを深められる時間がとれるとよい。
- 題材の内容からもう少し早めに離れられるとよい。題材の内容ではなく、中心となる価値項目について、生徒が考えを深められる時間がもう少しとれるとよかった。

# 社会科学習指導案

＜授業の視点＞異なる立場に分かれて、人権が対立した場合の対処方法を話し合う活動は、人権が制限される場合があることを理解させるために有効であったか。

3年2組 指導者 高橋 浩美

- 1 単元名 個人の尊厳と日本国憲法 学習指導要領 [C (1)]
- 2 ねらい 異なる立場の人権が対立した場合の対処方法を話し合う活動を通して、人権の保障の限界や制限される場合があることを理解できるようにする。
- 3 展開

主な学習活動 主な発問 予想される生徒の意識 [S]	○指導上の留意点◆評価項目 (観点)
<p>1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(7分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「異なる立場の人々の人権が対立した場合、どのように解決すればよいでしょうか。」</div> <p>S : 話し合いで解決すればいいけれど、どちらかの人が我慢することになりそうだな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">＜めあて＞人権が制限を受けるのはどのような時で、日本国憲法ではどのように定められているだろうか。</div>	<p>○身近な事例から学習への興味・関心を高められるように、異なる立場の人権が対立している資料を提示し、どのような人権同士が対立しているか、問いかける。 【★提示】</p> <p>○どちらかの人権が制限を受けない限り問題が解決しないことに気付けるように、人権同士が対立した場合の解決方法を問いかける。</p>
<p>2 人権が制限を受ける場合と日本国憲法第12条について知る。(5分)</p>	<p>○公共の福祉について理解できるように、憲法12条を音読させ、資料を提示して説明する。</p>
<p>3 バイパス建設の例について、個人で公共の福祉のために制限される権利と保障されるべき権利について考える。(13分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">それぞれの立場に分かれて、保障されるべき権利や公共の福祉について考えましょう。</div> <p>S① : 元の道路は住宅街だし、横断歩道があって危険、バイパスは利用する多くの人の利益になるね。</p> <p>S① : 立ち退いてもらう場合、保障するのは新しい家だけでいいのかな。</p> <p>S② : 経済活動の自由である、居住の自由や財産権が侵害されてしまう。畑で農業をしているから、職業選択の自由も侵害されるといえるね。</p> <p>S② : 長く住んでいたら家を手放すのは寂しいと思うな。</p>	<p>○自分事として考えられるように、グループ内で「①強制的に立ち退きを求めたい県職員」と「②バイパス建設に反対の地元住民」という異なる立場の役割に分かれるよう指示をする。</p> <p>○自分の立場を押し通すことなく、対立を合意に導けるように、既習の「効率」と「公正」の観点を確認する。渋滞が起きているということが時間の無駄であり、効率が悪いことを確認する。</p> <p>○①の立場の生徒が、バイパス建設によって得られる利益に気付けるように、元の道路のままでは困る人々の視点に立って考えることを助言する。</p> <p>○②の立場の生徒が、自分たちの権利にばかり着目することがないように、どのような事情に配慮されれば納得できるか考えるよう助言する。</p> <p>○グループ活動で自信をもって主張できるように、同じ立場の生徒同士で、自分たちの考えを伝え合い、情報を補完・修正するよう指示をする。</p>
<p>4 グループ毎に公共の福祉のために制限される権利と保障されるべき権利について話し合う。(10分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">バイパス建設や住民への保障をどうしたらよいか、グループ毎に結論を考えましょう。</div> <p>S② : バイパスができれば、立ち退く私たちよりも多くの人々が利益を得られるのかな。【★共同編集】</p>	<p>○公共の福祉による制限について多角的な視点で慎重に話し合うことができるように、バイパスを作る作らないという結論を急ぎ、他の立場の人々の人権を不当に制限する話し合いにならないように助言する。</p>
<p>5 学級全体で互いのグループの結論や話し合いの様子について話し合う。(8分)</p> <p>S② : 県の職員側に納得できるように説明をしてもらえてよかった。</p>	<p>○人権の制限を受ける住民の感情への配慮に気付くことができるように、合意した内容だけでなく、話し合いの感想についても発表するように促す。</p>
<p>6 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容の振り返りをする。(7分) 【★保存・提出】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">＜まとめ＞ 人権は、多くの人々が同じ社会で生活する中で、人権同士の対立を解消しなければならぬときに制限を受けることがある。憲法では、自由や権利は公共の福祉のために利用すると定められている。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">＜振り返り＞ S : 公共の福祉のためだと理由つけてしまうと、戦争中の日本のように、人々の人権が不当に制限されてしまう危険性があると感じた。どのような社会全体の利益のためなのか、慎重に考える必要があると思った。また、今日の学習で出てきた他人の名誉を傷つける行為の禁止についてなど、まだ学習していない人権の保障について学びたい。</div>	<p>◆評価項目 (知)</p> <p>ワークシートや振り返りの記述内容から、「公共の福祉のために、人権保障の限界や制限される場合があることを理解しているか」を評価する。</p> <p>○学習の深まりを実感できるように、数名の振り返りを紹介するとともに、多角的に話し合いが行ったことや学習全体の様子について称賛する。【★一覧表示】</p>

### ＜社会科における目指す生徒像＞

○知識・技能を活用し、自分なりの考えをもち、話し合ったり意見交流をしたりすることを通して、社会的事象の特色や意味等への考えを高め合うことのできる生徒。

### ＜学び合い、考えを高め合う姿＞

- ・ (個別に考える際に) それぞれが異なる立場の役割をもつことで、一人一人が自分の考えをもつ。
- ・ (同じ立場の友達との交流) 同じ意見に触れたり、情報を補完・修正したりする時間を設けることで、自分の考えに自信をもつ。
- ・ (グループ活動を通して) 多角的に事象を捉え、互いに納得できるような考えを模索する。

### ＜成果＞

○個人で考えた後、同じ役割 (立場) の友達と情報を補完・修正する時間を設けたことは、グループでの話し合いのために有効であった。

○一人一人が話しやすい工夫として、役割演技は有効だった。

### ＜課題＞

- 導入部分で、生徒が憲法や人権の学習を身近に感じ、話し合いに必要感を感じられるような具体的な出来事の例示が足りなかった。
- 生徒の経験や知識が少ない内容で、授業の前半部で生徒が疲れてしまった。授業の構成を、始めに「体験活動として話し合いを行う」、それをもとに「具体的な事実に関する知識を共有する」という流れに組み替えるとうかった。

技術・家庭科（技術分野） 学 習 指 導 案

令和6年9月27日（金） 第5校時 パソコン教室  
沼田市立沼田東中学校 3年1組 指導者 野上 沙織

授業の視点

プレゼンテーションの制作を行う上で、ペアを組み、意見を出し合うことが問題点の改善やより分かりやすいスライドの制作につながるか。

- 1 題材名 『コンテンツを構想し、制作しよう』〔D（2）〕
- 2 ねらい コンテンツの構想に沿ったプレゼンテーション（スライド）の制作と第三者の意見を反映した改善点の修正を行い、より相手に伝わりやすい形に反映できるようにする。
- 3 展開

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
<p>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (10分)</p> <p>&lt;めあて&gt; コンテンツの構想に沿った制作を行い、第三者視点の改善点をお互いに伝え合い、反映しよう。</p> <p>S：第三者の視点とはどういうことかな。 S：なぜ第三者の視点に立つことが大切なのかな。</p>		<p>○本時の学習に見通しをもって臨めるように、本時の流れを全体で確認する。 ○コンテンツにおける構成要素の重要性を示すために参考画像を提示する。 【★提示】 ○本題である『コンテンツの構想と制作』にスムーズに移行できるように、プレゼンテーション（JUST）の操作に関する参考資料を配付する。</p>
<p>2 『好きな食べ物』をテーマに、個人で1枚目（表紙）・2枚目（本文1頁目）のスライドを作成する。 (10分) 【★制作】</p> <p>「まずは自分なりにテーマに沿ったスライドを作成してみましょう」</p> <p>S：どのようにしたら相手に伝わりやすいかな。 S：この色やフォントは分かりやすいかな。</p>		<p>○今回のスライドにまとめる大まかな内容（必ず書くこと）を把握できるように、事前に提示する。 ○交流活動にスムーズに入れるように、活動の進め方を確認する。 【★提示】 ○プレゼンテーション（JUST）の操作について、参考資料を見ても分からない場合は声をかけるように伝える。 ○巡回しながら操作面で進行に影響が出ている生徒がいないか確認し、いる場合はフォローする。 ○データの損失を防ぐために、こまめに上書き保存を行うことを伝える。</p>
<p>3 2人1組で相手のスライドを確認し合い、第三者の視点からの意見を出し合う。(10分) 【★コンテンツの確認】</p> <p>「相手のスライドを確認して、良かった点や気になる点、より分かりやすくするためにはどのように手を加えたら良いかを伝え合いましょう」</p> <p>S：私はこの色やフォントがいいと思ったけれど相手からは分かりづらかったな。 S：文字のサイズはもう少し大きい方が見やすくなるな。 S：自分で見た印象と第三者の印象は異なっているな。</p>		<p>○コンテンツの構成要素について、項目ごとに確認を行えるようにシートを用いることを促す。 ○行うのはあくまでもアドバイスであることを強調し、相手のスライドを否定・批判することがないように伝える。</p>

<p>4 制作したスライドのコピーを作成し、第三者視点の意見を取り入れながらコンテンツの再構成を行う。(10分) 【★制作(編集)】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「もらった意見を参考にしながら、コピーしたスライドに手を加えてより分かりやすいコンテンツを制作してみましょう」</p> </div> <p>S : 最初に作ったスライドより文字がはっきりしたな。  S : 最初に作ったスライドより全体のバランスが整ったな。  S : 第三者の意見を取り入れると自分では気がつけなかった箇所の改善ができるな。</p>	<p>○元のスライドと編集を行ったスライドの比較を行うため、必ずコピーを取り、元のスライドを削除しないように注意する。  ○第三者の視点をより明確に反映させるために、編集後のスライドをペア相手に確認してもらい、お互いに変化を確認し合うよう声かけを行う。</p>
<p>5 本時のめあてを確認し、学習内容の振り返りを行う。(10分) 【★保存・提出】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;まとめ&gt;  コンテンツは第三者が見ることを前提とする場合が多い。そのため、コンテンツの構想や制作を行う際には自分のみの視点にとらわれず、『第三者の視点』を意識してより分かりやすく伝わりやすい設計を心がける必要がある。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;振り返り&gt;  S : 自身の視点と第三者の視点では、コンテンツのわかりにくい箇所が異なっていることがわかった。  今後プレゼンテーションを活用した制作を行うときには、第三者の視点を意識しながらより分かりやすいコンテンツの構想と制作を行っていきたい。</p> </div>	<p>○本時のめあてに沿った振り返りができるように、再度本時のめあてについて提示する。  ○第三者の視点を入れることでコンテンツがどのように変化したかを紹介するために、何名かの生徒のスライドを編集前と編集後の順に表示する。 【★提示】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◆評価項目(思)  2人1組での交流活動から、「第三者視点での改善点をお互いに伝え合い、それをスライドに反映してより相手に伝わりやすい形に反映できているか」を評価する。</p> </div>

<技術科における目指す生徒像>

- 問題を見いだして課題を設定し、使用するメディアの効果的な利用方法等を構想して情報処理の手順を具体化するとともに、制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考えることができる生徒。

<本時における高め合った姿>

- 第三者の視点を反映し、評価・修正を行うことで、自身の構想したコンテンツを視覚的により分かりやすく、かつ内容が伝わりやすいものに仕上げることができる。
- コンテンツの構想と制作を行う上で、自身の視点のみではなく第三者の視点を意識しながら制作を行うことができる。

<成果>

- 事前に生徒が使用するファイルを準備したことでデータ作成の手間を省略し、スムーズに作業を始めることができた。
- 生徒が関心を持ちやすいテーマを題材としたことで積極的な活動への参加を促すことができた。

<課題>

- 説明に時間を有してしまい、活動時間が予定よりも短くなってしまった。
- 想定よりも生徒がパソコン操作に不慣れであり、スライド作成が難航したため、協働による話し合いの時間を十分に設けることができなかった。

# 数学科学習指導案

令和6年10月7日 第1校時  
1年4組（男子4名、女子1名 計5名） 4組教室  
指導者 町田 実

## 授業の視点

yがxに比例する関数の特徴とヒントを表示し対話して問題を解かせたことは、問題解決に有効であったか。

1. 題材名 比例と反比例
2. ねらい 2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を効率よく見つけることができる。
3. 授業の流れ(全19時間予定 本時13時間目 「まとめ」過程)

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び支援
1 既習事項を確認する。 ○ 2つの数量の関係からyはxに比例する式を確認する。	5	○ 式 $y = ax$ に表すことができると、yはxに比例する関数であることがわかることを伝える。
2 めあての確認をする。 めあて 2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を正確に速く見つける。		○ めあてを知らせる。
3 例題を解く。 ○ 様々なxとyの2つの数量を提示する。		○ めあて再度確認する。 ○ 式を作成してから、yはxに比例する関数の見つけ方を+++++++説明する。
<p>例題 次のx、yの関係について、表を完成させながら「yがxに比例している」ものをさがし、記号で答えなさい。</p> <p>ア 半径x cmの円の周の長さがy cmである。</p> <p>イ x歳の人の体重がy kgである。</p> <p>ウ 縦の長さがx cm、横の長さがy cmの長方形の面積が12 cm<sup>2</sup>である。</p>		
4 個人で例題を解く。 S：ア 公式を活用して考える。 イ 表で考える。 → 表ができないことに気がつく ウ 表または式で考える。 → 式：xで両辺を割る。 表：比例の表の特徴と比較する。	15	○ 個人で考えさせる。困っている場合はヒントを与える。 ○ 順番に指名し対話しながら、問題を解かせる。 ○ 個人で問題を解かせる。困っている場合はヒントを与える。
5 全員で例題の解き方を確認する。		○ 順番に指名し対話しながら、問題を確認していく。
6 個人で問題を解く。		○ 個人で考えさせる。困っている場合はヒントを与える。
<p>&lt;問題&gt; 次のx、yの関係について、yをxの式で作成し「yがxに比例している」ものをさがし、記号で答えなさい。</p> <p>ア 半径x cmの円の面積がy cm<sup>2</sup>である。</p> <p>イ x歳の人の足の長さがy cmである。</p> <p>ウ 24mのロープをx人に等分するときの1人分の長さがy cmである。</p> <p>エ 秒速4mでx秒走ったときの道のりがy mである。</p> <p>オ 1本130円のジュースをx本買うときに、1000円支払っておつりがy円である。</p>		
S ア 円の面積の公式は？ イ 足の長さは人によって異なるよね。 ウ わり算だよね。 エ 「み・は・じ」だな。 オ おつりは引き算だよね。	20	○ 問題に合わせてヒントを与える。 ○ 順番に指名し対話しながら、問題を確認させる。
7 全員で問題の解き方を確認する。 S：ア公式を活用して考える。 イ表で考える。 ウ表または式で考える。 エ公式を活用して考える。 オ表または式で考える。		<p>【評価項目】</p> <p>○ おおむね満足 2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を効率よく見つけることができる。 (思考・判断・表現：ワークシート、発言)</p>
8 本時の授業の内容をまとめる。 S：2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を効率よく見つけるためには、問題に適した式または表を活用すればよい。	5	○ 本時のめあてを確認してからまとめをする。 ・ 「2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を正確に速く見つける」ために、何を利用すればよいかを考えさせる。
9 本時の振り返りをする。 S：yがxに比例する関数を表や式を活用すると正確に速く見つけることができた。	5	○ 本時のめあてを確認する。 ・ 2つの数量の間の関係から、yがxに比例する関数を正確に速く見つけることができたかを考えさせる。

## [成果]

- ◎ 生徒との人間関係が有効であり、対話活動もスムーズにながれ比例についての理解が深まった。
- ◎ ねらいである「yがxに比例する」関係を効果的に見つけ方が、生徒の振り返りに表れていた。

## [課題]

- 生徒がもう一度解き方を振りかえるときに、視覚的にわかりやすいように板書を整理して書くと効果的である。
- 深い学びへとつなげていくためには、生徒の発言に対してその根拠を聞いていけるとよりよくなる。

# 数 学 科 学 習 指 導 案

## 単元名「1次関数」〔学指要領：C(1)〕

令和6年10月9日(水) 第3校時 2年1組教室  
沼田市立沼田東中学校 2年1組 指導者 関口 由香利

<授業の視点>少人数で話し合ったり意見交換をしたりしながら課題解決に取り組んだことは、自分の考えを確かなものにしたたり、理解を深めたりする上で有効であったか。

### 本時の学習(13/18)

- 1 **ねらい** 具体的な事象を二つの数量によって表し、その関係を表、式、グラフを利用して解決する活動を通して、表、式、グラフの特徴やよさを統合的、発展的に考察することができるようにする。
- 2 **展開**

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)														
<b>1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。個別に考える。(10分)</b>		○前時までの学習と関連付けながら授業に取り組めるように、ウォーミングアップの問題に取り組むよう促す。														
<問題場面> みかさんの家から学校までの道のりは1000mです。 ある日、みかさんは8時ちょうどに家を出発し、登校の途中に郵便局の前でかなさんと待ち合わせをしました。早く到着したみかさんは、郵便局の前でかなさんの到着を待ってから、2人でいっしょに登校しました。 次のグラフは、家を出発してからx分後のみかさんと家との間の道のりをy mとして、xとyの関係を表したものです。																
	<b>S : 8時20分に学校に着いた。</b> 家から郵便局まで600m。 途中で速さが変わっている。 グラフにまっすぐなところがあるから、動いてない時間がある。	○問題場面をイメージできるように、具体物を利用して問題場面を確認する。  ○数学的に考えられるようにするために、グラフからどんなことが分かるか、どんな問いが考えられるか問う。														
<めあて> 表、式、グラフを使って問題を解決しよう。 それぞれの特徴やよさは何だろうか。																
(1) みかさんの忘れものに気づいた兄が、8時12分に自転車で家を出発し、分速200mで追いかけてきた。8時x分における兄と家との道のりをy mとして、みかさんに追いつくまでのxとyの関係を、上のグラフにかき入れなさい。																
<table style="border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">x</td> <td style="padding: 5px;">12</td> <td style="padding: 5px;">13</td> <td style="padding: 5px;">14</td> <td style="padding: 5px;">15</td> <td style="padding: 5px;">16</td> <td style="padding: 5px;">17</td> </tr> <tr> <td style="border-right: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">y</td> <td style="padding: 5px;">0</td> <td style="padding: 5px;">200</td> <td style="padding: 5px;">400</td> <td style="padding: 5px;">600</td> <td style="padding: 5px;">800</td> <td style="padding: 5px;">1000</td> </tr> </table>	x	12	13	14	15	16	17	y	0	200	400	600	800	1000		
x	12	13	14	15	16	17										
y	0	200	400	600	800	1000										
(2) 兄はみかさんに、家から何mのところまで追いつきますか。また、そのときの時刻を求めなさい。																
<b>S : グラフの交点をよめばよい。</b>																

<p><b>2 個別に考えた解き方を少人数で集める。(15分)</b></p> <p>表、式、グラフのうち、何をどのように利用すればよいだろうか。</p> <p>S: 表にすると、<math>x</math>と<math>y</math>の値が分かってグラフがかける。グラフをかくと、どこで追いついたか見ただけでわかる。今回は読み取れたけど、読み取れないときもあるから、式を使うとよい。</p>	<p>○どのように考えて答えを導き出したかを説明できるように、必要に応じて表、式、グラフを用いて表すよう促す。</p> <p>○答えの導き出し方を多様に考察できるように、少人数で考えたり、ヒントカードを使用したりするよう助言する。</p>
<p><b>3 全体で生徒が考えた答えの導き出し方を共有し、表、式、グラフの特徴やよさを話し合う。(15分)</b></p> <p>「どんなときに何を使うとよいだろうか。」</p> <p>S: 問題全体を理解するためにグラフが分かりやすい。表が作れたら、そこから式が求められる。たくさん問いがあると求める値も多くなるから、式を求めておくと使いそう。</p>	<p>○表、式、グラフの特徴やよさを統合的・発展的に考察できるように、それぞれの問いを表、式、グラフの何を用いて解くと分かりやすいか問いかける。</p> <p>◆評価項目(思①) ワークシートの記述から「表、式、グラフを関連付けているかと、表、式、グラフの特徴やよさを統合的・発展的に考察しているか」を評価する。</p> <p>○グラフの特徴やよさを統合的・発展的に考察できるように、いろいろなタイプのグラフについて考え、様々な見方をするように促す。</p>
<p><b>4 本時のめあてに対するまとめを確認し、学習内容の振り返りをする。(10分)</b></p> <p>&lt;まとめ&gt; 表→見ただけで数値がすぐにわかる。 式→関係を簡単に表現しているので、代入すれば値が簡単に求められる。 グラフ→全体の様子や変化の様子が分かりやす</p> <p>&lt;振り返り&gt; S: 今回の問題はグラフを使うことで、全体の様子がよく分かった。表、式、グラフのそれぞれのよさがあるから、何を求めるかによって上手く使い分けたい。</p> <p>&lt;発展問題&gt; 弟を学校に送った母は8時ちょうどに学校を出発し、分速100mの速さで家に向かった。みかさんと母が出会う時刻と場所を求めなさい。</p> <p>S: およその値がグラフから読み取れるね。グラフだけだと正確には分からないから、連立方程式で解いてみよう。</p>	<p>○本時の学習内容を自覚できるように、表、式、グラフの特徴やよさの視点からまとめるよう助言する。</p> <p>○既習事項とのつながりや新たな気づきを整理できるように、ペアで気付いたこと、疑問に思ったことを伝え合うよう促す。</p> <p>○自分の考えがもてるように、できそうな方を選択して取り組むように促す。</p>

<数学科における目指す生徒像>

○基礎的・基本的な知識及び技能を活用し、話し合ったり意見交換をしたりしながら、自分の考えを広げ、他者との共感や理解を深めることができる生徒。

<本時における高め合った姿>

○話し合いや意見交流を通して他者の考えを聞き、課題解決の見通しをもって課題に取り組むことができる。  
○表・式・グラフを一体として捉え、自分が用いたもの以外のものも使って考えることができる。

<成果と課題>

【成果】◎話し合いのための工夫があった。(近くの人と相談、ペアで説明し合う)

◎授業の進め方が丁寧であった。(発問が明確、記号や色分けで視覚化する)

【課題】●表、式、グラフを学ぶ必要性を生徒が感じられるような学び合いが必要。(それぞれの良さ、有用性)

●主体的に学ぶ、対話をさせる授業を目指す→「なんで？」を説明させる、教師と生徒・生徒と生徒等

国語科学習指導案

令和6年10月23日(水) 第2校時  
2年1組教室 指導者 星野 梓

授業の視点

韻を踏んだ四行詩を作る活動を取り入れたことは、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考える上で有効であったか。

- 1 単元名「古典に学ぶ」 教材名「漢詩の世界」[学指要領：知(3)ア、イ 思C(1)エ、オ]
- 2 本時のねらい 韻を踏んだ四行詩を作る活動を通して、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えさせる。
- 3 授業の流れ(全4時間 本時は3時間目「追究する」課程) 【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 予想される生徒の反応〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)  〈めあて〉韻を踏むと、どのような効果があるだろうか。		○前時で学習した内容を確認し本時の学習に生かすことを説明し、見通しをもって学習に取り組めるように、本時の流れを説明し、四行詩を作ることを伝えておく。
2 ワークシートを使って、四行詩を作る。小グループで何をするか確認する。(10分)  「四行詩を書く条件に気を付け、漢詩の特徴や表現を生かした詩を作ろう。」  ワークシートの確認を終え、テーマを考える生徒の反応 S：書くことがよく分からなかったけれど、友達と話ができてやること分かった。 S：どんなテーマにしようかな。起承転結を使って面白い詩を作りたいな。漢詩の特徴ってどんなものがあったかな。		○文末で韻を踏むことや、心情や情景描写を入れること、五感に注目して文章を書くことを説明する。  ○四コマ漫画を例に出し、起承転結について説明する。  ○ワークシートを小グループで共有する。何を書くのか条件を確認させる。
3 グループでの確認が終わったら、四行詩を作る。(25分)  四行詩を考える生徒の反応 S：文末で韻を踏むとラップみたいで、リズムがあるな。 S：情景描写や心情描写ってなんだか難しそうだな。  「ワークシートに四行詩が書けた人は、ロイロノートのカードに記入して提出してください。」  友達の四行詩を見た生徒の反応 S：友達はこんなことを書いている。参考にしよう。		○何をするのか共有できた班から、机を戻し個別に四行詩を作る。 ○机間巡視し、なかなか書けない生徒に声を掛ける。  ○四行詩が書けた生徒には、もう一度読み返し、よりよいものになるよう推敲させる。
4 本時の振り返りをする。(10分)  ・韻を踏むと、どのような効果があるか、ロイロノートのカードに記入し全体で共有する。 ・振り返りシートに記入する。  〈まとめ・振り返り〉S：韻を踏んだ四行詩を作ることで、言葉のリズムや響きの面白さがわかった。短い詩の中に、心情描写や情景描写を入れることは難しかったけれど、言葉を選ぶことの大切さに気付いた。これから、詩や俳句など文章を書く際に、今日学んだことを生かして、もっと多くの言葉を知り、使っていきたいと思った。		

◆評価項目(思考・判断・表現)

・ワークシートや振り返りの記述内容から「文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えているか」を評価する。

(成果) ○四行詩のテーマを絞ったことで生徒が詩を書きやすい手立てとなった。

○授業の進め方の中で、途中でも活動を止め、作品鑑賞や振り返りができた。

(課題) ●授業の流れが淡々としているので、指示を明確に出してあげると生徒が動けるようになる。

●生徒の達成した姿をより具体的にしていけるとよい。

# 英語科学習指導案

令和6年11月25日(月) 第5校時 1年1組教室  
沼田市立沼田東中学校 1年1組 指導者 亀井 康平

## 授業の視点

ペア、全体の順に、段階を踏んで交流活動を取り入れたことは、自分の好きな人物とその理由について正しく紹介し合わせる上で有効であったか。

- 1 単元名 「Program6 The Way to School」
- 2 ねらい 友達と好きな人物とその理由について紹介し合う。
- 3 展開

主な学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p>1 本時のめあてをつかみ、理由の聞き方、理由の述べ方、代名詞の活用の仕方を復習する。(15分)</p> <p>&lt;めあて&gt; 好きな人物の写真を見せながら、その人物について名前と好きな理由を伝え合おう。</p> <p>S: 理由を聞くときには why、理由を述べるときには because を使うのだったな。 S: 話題の人物が男性なら he と him、女性なら she と her、2人以上のグループ名等なら they と them を使うのだったな。</p>		<p>○好きな人物について正確に紹介し合えるよう、理由の聞き方や理由の述べ方、代名詞の主格とそれに対応する目的格を全体で確認しながら、理由を聞いたり述べたりする会話を口頭練習する。【★提示】</p>
<p>2 選んだ人物の好きな理由を考え、名前とともにワークシートにメモする。また、理由をどう英語で表現するか考える。(10分)</p> <p>S: because の次は主語、動詞で始まる文が入るのだったな。 S: 「カッコいいから」は英語でどう言うのかな。 S: 「歌がうまいから」は英語でどう言うのかな。</p>		<p>○好きな人物について紹介する際の参考となるよう、それぞれの生徒の好きな人物が印刷されたワークシートを配付し、その人物の名前と好きな理由をメモさせる。</p> <p>○好きな人物について友達と自信をもって紹介し合えるよう、英語でどう表現したらよいかわからない生徒には個別に支援をする。</p>
<p>3 好きな人物について紹介し合う。(20分)</p> <p>①ペアで好きな人物について紹介し合う。 S: うまく伝えることができたな。 S: 好きな理由がしっかり聞き取れたな。 S: この言い方で合っているのか不安だな。</p> <p>②他の友達と好きな人物について紹介し合う。 S: 正しい表現で好きな人物について紹介し合おう。</p> <p>③まとめとして自分が伝えた好きな人物とその理由、友達が伝えてくれた好きな人物とその理由を1文ずつ書き、それを撮影し、提出する。【★保存・撮影】</p> <p>④友達が書いた紹介の文をクロムブックで閲覧し、参考にする。</p>		<p>○より正確に自分の考えが表現できるように、ペアで紹介した後、うまく相手に伝わったかどうかを確認し、表現の仕方が分からない内容があれば質問させ、必要に応じて全体で共有する。</p> <p>◆評価項目(思・主)</p> <p>・友達と好きな人物について伝え合う場面において、「why や because、代名詞を正しく用いて、好きな人物について名前や好きな理由を伝え合っているか」を評価する。</p>

<p>4 本時のめあてに対し、言語面・内容面から学習の振り返りをする。(5分)</p>	<p>○本時のめあてに沿った振り返りができるように、振り返りの視点を提示する。 ○次時以降の活動の意欲がもてるよう、本時の取り組みを賞賛する。</p>
<p>&lt;まとめ・振り返り&gt; S : why と because、代名詞を正しく使って、自分の好きな人物について名前とその理由を伝え合うことができた。他の人の好きな人物について知ることができ、友達の新たな一面を見つけることができた。これからも進んで英語を使って自分の考えを友達に伝えていけるようにしたい。</p>	

英語科における目指す生徒像

○友達のことを取り入れたり、相手にとってわかりやすい表現を考えたりしながら、既習の語句や文を用いて自分の考えや気持ちを伝え合うことができる生徒。

本時における高め合った姿

○友達との交流を通して、表現の仕方を修正したり、自分の考えに自信をもったりしている。  
○友達のことを認め、聞き取った友達の考えを自分の言葉で表現している。

<成果>

○課題設定、その後の授業の流れがよかったので、生徒は意欲的に授業に取り組んでいた。  
○個々にワークシートを準備したことが、生徒の意欲的な授業への取り組みにつながっていた。

<課題>

- 導入部分の教師の説明が長かったため、生徒の活動の時間が短くなってしまった。既習表現を活用する学習内容だったので、説明を必要最低限にして、生徒の活動の時間をより多く確保できるとよかった。
- 導入部分のデモンストレーションや、分からない表現の確認のときなどに、ALTにもっと活躍してもらえるとよかった。

# 保健体育科学習指導案

令和6年12月10日(火) 第5校時 体育館  
沼田市立沼田東中学校 1年 指導者 星野 颯

【授業の視点】全員が楽しめるバレーボールのルールを考えるために、個人、チーム、全体で話し合い活動をしたことは、より良いルールを考える上で有効であったか。

- 1 単元名 バレーボール [学指要領:E、1学年、イ]
- 2 ねらい 簡易的なバレーボールのゲームにおいて、全員が楽しめるルールを見付けるために、個人で考えをもちチームや全体に伝えることができる。
- 3 展開

主な学習活動 予想される児童・生徒の反応[S]	主な発問	○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
1 体操・基本的な動きの反復練習をする。(5分)  2 今までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。(5分)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">                         &lt;めあて&gt;                          全員が楽しめるルールを考えて、チームで話し合い、伝え合おう。                     </div>		○基本的な動きができるように、意識をして練習できるように促す。 ○前回行った正式なルールのゲームを思い出し、本時のやることを考えさせる。 ○今までの学習を振り返り、本時のめあてをつかめるように促す。
3 個人で、正式なルールでゲームを行った感想をタブレットに記入し、どんなルール変更があるか考える。(5分) S: 正式なルールだと難しいな。 S: ラリーが続くためのルールを考えよう。		○楽しくなかった理由を考える。 ○理由から、どのようなルールにすれば全員が楽しめるか考える。
4 個人で考えたことをもとに、チームで話し合いをして、全員が楽しめるルールを考える。(10分) S: 「全員が楽しむために」が大事だね S: そのルールだと難しいかな		○個人で考えたことを、必ずチームに伝えること。 ○「全員が楽しめるルール」を考えること ・ボールに触れる回数 ・バウンド回数等
5 クラス全体に共有し、ルールを決める。(10分) ・チームごとにホワイトボードにルールを書かせて、全体で共有する。 ・ボールに触れる回数、バウンド回数、サーブ仕方をポイントとして考える。		○どのようなルールであれば「全員が楽しめるか」問いながら生徒の意見を引き出す。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         ◆評価項目(思考力・判断力・表現力)                          体力や技能の程度、性別等を踏まえて、仲間とともに楽しむためのゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。                     </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">                         ◆評価方法(思考力・判断力・表現力)                          タブレット(ロイロノート)を活用し、個人・チームの考えたことを記入できるようにする。また、生徒同士で考えたことを(記名)をしてメモをとらせる。                     </div>
6 全員で決めたルールでゲームを行う。(10分)  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                         &lt;まとめ・振り返り&gt;                          全員が楽しめるために、ルールの工夫を考えて、仲間に伝えることができた。                          S: 全員が楽しめるバレーボールのルールを考えられた。                          S: 全員が楽しめるバレーボールのルールを考えて、伝えられた。                     </div>		○ルールのおさらいをしながら、全員が楽しめているかを確認するように伝える。

### 「成果」

- ・準備や片付け、話し合い等で生徒の主体性が見られた。
- ・学習規律が守れ、短い指示でよく動いていた。
- ・授業の流れがよかった。課題からめあてを考え、授業の組み立てが考えられている。
- ・タブレットの活用ができています。
- ・ウォーミングアップが良かった。

### 「課題」

- ・能力差・技能が低い子への対応の仕方
- ・活動量の確保の仕方
- ・振り返りの時間の確保
- ・用具の安全点検

### 「まとめ」

能力差・技能が低い子への対応の仕方については、今後も工夫を重ねていかなければならない。特に、苦手意識から「楽しい」と思える場面が少なくなる傾向にあるので、ステップアップしていく運動で小さな成功体験ができる授業構成を考える。また、活動時間の確保や運動時間の確保は、動きながら対話ができる場면을意図的に考えて、授業作りに励む。